

平成30年度 第1回 堺市子ども読書活動推進計画懇話会議事録（要旨）

開 催 日

平成30年8月9日（金）午後1時30分～3時30分

場 所

堺市職員厚生会職員会館 多目的室

出席委員

脇谷座長、太田委員、片岡委員、川本委員、岸村委員、杉本委員、土居委員、仲村委員

事務局

中央図書館総務課

議 事

（1）座長の選出

（2）「堺市子ども読書活動推進計画」の改定について

議 事

（1）座長の選出

「堺市子ども読書活動推進計画懇話会開催要綱」に基づき、委員の互選により脇谷委員を座長に選出。

（2）「堺市子ども読書活動推進計画」の改定について

● 改定素案全体についての意見

（杉本委員）

市立中学校では、平成29年度、全校配置された学校司書により、学校図書館の蔵書調査が行われた。蔵書点数については、この調査に基づく数字を使用してほしい。

「学校図書館図書標準」は平成5年に定められたもので、「学校図書館メディア基準」の半分以下。この基準を満たせば充分かは疑問である。また、図書標準を達成していても、スペース、書棚が不足して、本が配架できないという現状がある。

（脇谷座長）

学校図書館の統計数値については、蔵書点数以外に、貸出点数も必要。基礎データを積み重ねることで、経年変化がわかる。

（岸村委員）

「取組一覧」に「学校図書館・学級文庫の資料の整備」とある。学校図書館は、教育課程の中で、読書センター・学習センター・情報センターとして位置づけ、資料の整備を図っているが、学級文庫は、学校図書館で一定期間利用して除籍した本等を移管しているのが現状。

「学級文庫の資料の整備」という記述は、購入資料を学級文庫に配架するという誤解を生み、結果的に学校図書館に新刊が入らないという結果を招きかねないので注意してほしい。

*補足：学級文庫については、指導者が学校図書館の本を選んで配架したり、公共図書館から団体貸出を受けたりして、定期的な本の入れ替えも行っている。

堺市では、平成 24 年に「学校図書館運営のてびき」を、平成 27 年に「堺市学校図書館運営方針」を作成して、学校図書館の整備に取り組んできた。改定素案に「堺市学校図書館運営方針」の記載はあるが、「学校図書館運営のてびき」の記載がない。「学校図書館運営のてびき」は、実際に学校図書館に携わる方の参考書として作成したものなので、こちらも改定計画に記載してほしい。

(杉本委員)

学校図書館は、小学校、中学校で全く違う。記述も分けて行った方がよい。

(土居委員)

指標案の「読書の好きな児童・生徒の割合が全国平均以上となる」は、主観的で、指標としてふさわしいかは疑問。それよりは、計画を具体的に記し、取組について取組指標を設定してはどうか。記述内容も、すべて均等でなくてよいと思う。大切なのは、作っていく過程での話し合いや、そこで課題が明らかにされることであり、実際の取組みが大事。

中学校は、図書の時間もなく、学校司書がいても出来ることは限られている。小学校こそ、図書館の使い方、読書の楽しみ方、調べ学習の仕方等、まず基礎的なものを学ぶために学校司書が必要だと思う。この計画を作ることで次の一步につながる計画の作成を望む。

(片岡委員)

蔵書点数、貸出点数、除籍点数、予算及び各全国平均との比較等、統計数値がはっきりする体制を整えることが必要。集計には、コンピュータの導入が有効。どのような数値をとるかは、司書が考える必要がある。学校司書導入前と後の貸出点数は、比較のため必須。

「司書教諭」も計画に記載してほしい。

(岸村委員)

学校図書館に共通のコンピュータシステムが導入されれば、学校間での貸借も可能になる。

(土居委員)

コンピュータに関しては、公共図書館と同じシステムで、他校の本や公共図書館の本の検索・予約ができ、毎日搬送されることが理想。それを最終目標として、現実的な視点から計画にどこまで書けるか。

● 第 2 章 子ども読書活動推進への取組を中心とした意見

(脇谷座長)

図書館に来ない子ども、本・読書についての情報を持っていない子どもに対する取組が大切だと思う。地域連携の取組の可能性をどう考えるか。

(仲村委員)

子どもたちが本を読む楽しさを知る機会を増やすために、子ども会が関わり、連携して取り組めるのではないかと思う。

(川本委員)

子ども会でスポーツをやりつつ、家庭地域文庫で本を読む、という子どもを多く見てきた。物語を読まない子どもでも、自分の興味のある分野の本は読む。どんな子にも開かれているのが読書だと感じている。学校が、子どもの多様性にきめ細かく対応できる体制を取ること

ができれば、子ども読書活動の底上げはできると思う。

堺市子ども文庫連絡会が、堺市役所で読書イベントをしたことがある。外国籍の方も来られ、図書館の情報も提供することができた。

(脇谷座長)

保護者の立場からはどうか。

(太田委員)

中学生の子どもは、小学生の時は、学校の熱心な取組もあり読書好きだったが、夏休み等に時間を与えられないと本を読まなくなった。スマートフォンの影響も大きいと思うが、中学校の学校図書館も、子どもたちの興味を引く場所ではないと感じる。せっかく本を読む力があつたのに、本を読まなくなってしまうのは非常にもったいないと思う。

仕事で関わっている子育てひろばでは、まず保護者が興味を持って、子どもを絵本に触れさせることが大切だと話している。様々な価値観を持った保護者や外国籍の人も来る中で、本に親しむ環境について啓発するのは大切だと思う。

以前、子どもがオーサービジットに参加し、大いに興味を喚起された経験がある。やはりイベントは重要だと思う。

(川本委員)

堺出身の児童文学作家などによるオーサービジットを学校で実施してほしい。

(土居委員)

オーサービジットは、事前にその作家の作品をしっかりと読む等の準備をすると、書き手の側から物語に触れるという得難い体験につながり、文学やノンフィクションに興味を持つのに非常に効果的。

(仲村委員)

小学生は、素直に興味を示す。色々なことに会う時期としては、中学校時代より小学校時代の方が効果的で大事だと思う。

(脇谷座長)

ヤングアダルト世代の図書館利用は落ち込むが、その世代の読書についてはどうか。

(片岡委員)

中高生は、教師や大人の薦めた本はかえって読まず、友達・同世代に薦められた本を読むという傾向がある。我々は、生徒たちの会話に耳を澄ませたり、アンケートをとったりして、選書に活かしている。ニーズを把握して収集すれば、予算も効果的に使える。その情報の共有も大切。

探究学習については、子どもが学びたいものについて収集している。子ども達が自由にテーマを選んでも、900～1000程度。200～300万円で子どもの興味に対応しうる蔵書は作れる。市の学校図書館でも、何年かに分けて計画的に収集できないか。

(岸村委員)

図書費はクラス数に対応して決まるため、小規模校の図書費は少なく、調べ学習用の資料が十分買えない。学校図書館に携わる人も、それぞれ責任や仕事内容に制約があり、十分に活動しにくい場合もある。司書教諭は授業や担任を持っていて、日常的な学校図書館運営に

携わるのが難しいのが現状。こういった現状を理解した上で、計画に反映してほしい。

現在、公共図書館と連携して選書支援が行われているが、公共図書館が小学校図書館について十分理解した上で行ってほしい。そうでないと、学校図書館が「読書センター」に傾いたり、「学習センター」「情報センター」の機能を果たすための蔵書整備が進まなかったりする危険性がある。

(片岡委員)

堺市は、規模が大きく、学校数も多い。事業の実施には、大きな予算が必要であること、事業の継続実施も大変だということは理解できる。その中で、予算を使わず進められる事業は、除籍基準を決めること。学校図書館資料の除籍は、各学校の判断に任せると進みにくい。除籍を進めると、一時期は蔵書点数が減り、学校図書館図書標準を下回るが、面展示により新刊を目立たせ、魅力的な書架をつくることで、学校図書館の利用は増える。全市的に除籍基準をきちんと決めて、計画の中で言及することが重要である。

(土居委員)

ボランティアの「育成」「養成」という用語が気になる。「支援」「連携」という言葉で、市民と行政と一緒に取り組むという姿勢が計画の中で表現できればと思う。

(杉本委員)

ボランティア活動は、自主的・自律的に行うのであって、命令を受けて行うものではない。この認識をきちんと持ってほしい。図書館にかかわるボランティアとして、おはなし、読み聞かせ、赤ちゃんボランティアに言及されているが、人形劇や工作、音楽などのボランティアも記載が必要。また、ボランティアに対する情報提供を忘れないでほしい。

● 3章 子どもの読書活動推進体制の強化 を中心とした意見

(脇谷座長)

計画は作って終わりではなく、その後の進捗管理が必要。1年ごとに指標と進捗状況を管理する体制が必要だと考える。指標案についての意見はあるか。

(岸村委員)

「読書の好きな児童・生徒の割合が全国平均以上となる」を指標とすることには、違和感がある。小学校、中学校、高校と成長するにつれ、子ども達が読書離れするのは、読書が好きでなくなるわけではなく、他の活動により読書に割く時間がなくなるため。私たちがすることは、読書環境を整え、子どもが本に接する機会やその質を向上させることであり、子どもを「読書好きにする指導」は困難である。

学校に関する数値が抜けている。この8年あまりで学校図書館は大幅に改善されてきた。蔵書点数に関しては、除籍を進めたために一時期減少したが、それも増加に転じている。具体的な数字を出して指標とすれば、推進の状況がわかりやすい。

以上